

【学生によるESD学習支援活動】

奈良市立六条小学校 野外活動支援 報告書

理科教育専修 学部1回生 假屋美有

1. 実施日 令和元年10月2日(水)
2. 場所 生駒山麓公園野外活動センター
3. 参加者 谷垣徹(大学院生)
市川侑季、井原奈佑、假屋美有(学部生)
瀧上眞奈、松村京佳(奈良ユネスコ協会青年部)
奈良市立六条小学校第五学年児童 約120名、引率教員 約20名

4. 活動支援内容

令和元年10月2日(水)、生駒市にある生駒山麓公園野外活動センターにおいて、奈良市立六条小学校第5学年の野外活動が行われ、本学学生4名、奈良ユネスコ協会青年部2名がこの支援にあたった。この活動では、午後からの野外炊飯の支援やキャンプファイアーの準備、歌の指導、学生主導のスタンプを行った。

今回の活動を以下の2点から振り返る。
第1に状況に応じて臨機応変に対応すること、第2に常に周りを見て行動することである。

第1の状況に応じて臨機応変に対応することについてである。今回の野外活動に参加していた小学生は約120名と、かなり多人数の児童が参加していた。そのためキャンプファイアーの際には炎と児童との距離が離れてしまうなど、多人数故に起こる様々な場面が見られた。このように、あらかじめ想定できていなかった状況に出会ってしまったとしても、臨機応変に対応できるようにすることが大切であると感じたが、今回はできなかったため次の機会があれば実行していきたい。

第2の常に周りを見て行動することについてである。野外炊飯の際にはそれぞれが割り当てられた班を担当した。しかし、すべての班に一人ずつ付くことはできないため、自分の担当する班の様子も見つつ、支援者のついていない他の班の支援も行う必要があった。特に調理には扱いに注意しなくてはならない包丁をはじめ、様々な危険が伴ってくるので、十分な注意を払わなければならなかった。一つのことに集中しすぎるのではなく、常に周りを見て行動し、少人数ではなく多くの児童の支援に取り組むことが重要であると考えた。

今回の野外活動支援において、常に周りの様子を見て、臨機応変に行動する大切さを学んだ。これは、支援だけでなく、目標である学校教員においても求められる力であると考えます。今回の支援において、個人の成長を感じられた反面、悔いの残る場面も多々あった。しかし、それを学びとして次へつなげていきたいと思う。これからも積極的に活動に参加し、経験を積み、成長を通して自分自身の力を培っていききたいと思う。



キャンプファイアーの様子